豊庄だより

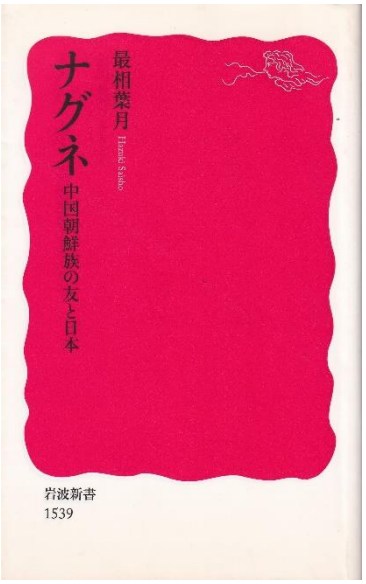
第 743 号 2023 年 2 月 6 日

福岡市早良区南庄２－２６－１３
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長　西尾　達

前号（742 号）の裏面に星新一のことを書きました。書いた後、星さんのショートショートが読みたくなり、山積みにしている本棚から探しだすことにしました。見つかったのは、『ボッコちゃん』『ようこそ地球さん』『妄想銀行』『マイ国家』『未来いそっぷ』。すっかりほこりをかぶっていました。「ショートショート」という名の通り、一つの話はとても短く、どの作品もアッと驚く結末が待っています。どれも面白いのですが、あえて一編をあげるとすれば、「さまよう犬」（『妄想銀行』所収）でしょうか。文庫本で 1 ページ半。少しだけストーリーを書きます（ネタバレしない程度に）。若い女性はいつも犬の夢を見ていました。犬は野原を寂しげに歩いており、何かを探しているようでした。女性はいつしかその犬を好きになるのですが、結婚したとたんその犬は夢に出てこなくなるという話です。3 分もあれば読破できます。夫になった男性が明かすエピソードに、にんまりしてしまいます。

さて、昨年末だったでしょうか、NHK が星さんの作品を映像化し、放映していました（「星新一の不思議な不思議な短編ドラマ」。）2022 年 4 月 5 日の「ボッコちゃん」が第 1 回で、以後 20 作が放送されました。「星新一のショートショートの映像化」というだけでワクワクします。しかし、放送のことに気づいたのは、第 3 回目の「地球から来た男」からでした。個性的な俳優が出演し、面白かったのですが、どれもちょっと冷たい感じがしてあまり好きになれませんでした。しかも 20 作の中で私が読んでいたのは、「ボッコちゃん」と「鍵」の 2 作だけでした。大好きな「ボッコちゃん」をどのように映像化したかとても興味を持ちますが、活字からのイメージを壊されそうで、パスしたほうがよさそうです（「ボッコちゃん」は、第 1 回放送だったので見ていません）。星新一の本はかなり読んでいると思っていたのに、放送の中に 2 作品しかなかったのは、残念でした。

次に紹介するのは本人が書いたものでなく、星新一の生涯と実像に迫るノンフィクションです。著者は最相葉月。本のタイトルは、『星新一　一〇〇一話をつくった人』（新潮社　上下 2 冊になりますが、同社の文庫本でも入手できます。長編ですが、興味を持たれた方はどうぞ。）最相さんの本は、とても緻密です。彼女の作品は、『ナグネ　中国朝鮮族の友と日本』（岩波新書）で初めて出会いました。私が教員時代、中国の朝鮮族自治州の旅をしたこともあり、この本に興味を持ちました。徹底した聞き取り取材と文献による裏付け。ノンフィクション作家はあまり文壇の日の当たる場所には現れませんが、最相さんは、優れた作家です。（※ナグネとは旅人を意味します）



今号では、星さんと星さんを取り巻くいろいろなことを書きましたが、彼は東京帝国大学農学部農芸化学科の卒業です。私も大学こそ違いますが、農芸化学を学ぶことを目指していましたので、その点からも星さんに親近感を持っています。星さんが研究者、家業の経営者（製薬会社）から作家になっていく過程、ショートショートを作る苦悩等が、最相さんの本に書かれています。